

事業名称	アートフル大分推進事業		
実行委員会	アートフル大分プロジェクト実行委員会		
中核館	大分県立美術館		
	住所	〒870-0036	
	TEL	097-533-4500	FAX 097-533-4567
	ホームページ	http://www.opam.jp	
構成団体	(公財) 大分県芸術文化スポーツ振興財団、大分県、大分県教育委員会、大分大学		
事業開始時点の課題分析	<p>大分県は、多様な自然、歴史、伝統に恵まれており、古来より外からの文化と在来の文化が出会い、融合することによって、宇佐国東地域における神仏習合や、16・17世紀の南蛮文化など新たな文化を作り出してきている。また、近世及び近代においても、豊後南画や竹工芸などが県民の身近な生活の中にあり、そうした環境の中から、美術の世界においても、日本画の福田平八郎や高山辰雄、彫刻の朝倉文夫といった我が国を代表する巨匠を輩出している。</p> <p>しかし、現状では情報化社会の進展や市町村合併等により、大分が有している文化の価値が見失われつつあり、芸術的風土についても理解が薄くなってきている。</p> <p>また、大分のもつ文化的資源、芸術的風土についても、地域の指導者が少ないことから、子どもたちがその価値に気付かないなど、大分の芸術的風土を、次世代につなげていく人材の育成に課題がある。</p> <p>このような認識から、大分県としては、小学生に対して、美術館への招待事業を実施しているが、中学生対象の取り組みやアウトリーチの取り組みは不十分である。</p> <p>将来の芸術文化を支える子どもたちの教育を中心として、様々な団体や県内各地域とのつながりを活かし、芸術文化の持つ創造性を最大限に活用する仕組みづくりをさらに深めていく必要がある。</p>		
事業目的	<p>本事業は、美術館が、学校や地域と連携して、美術を活用しながら地域文化の魅力を発見し、大分の芸術的風土を、後世に引き継いでいく、創造的で文化的素養をもった人材を育成することが目的である。</p> <p>そのため、開館以来創り上げてきた、「中間組織」（中間組織であるアートフル実行委員会は、美術館と学校、行政、大学、地域団体等を結びつける機能をもつ）としての機能を、最大限活用し、市町村・市町村教育委員会や地域（学校を中心とした地域コミュニティ）、さらには、地域文化を支える産業界などとも連携を深める。</p> <p>また、地域のもつ文化風土、伝統などのよさや美しさを、子どもたちを始めとする地域住民に実感してもらおうとともに、他地域との交流なども取り入れることでグローバルな視点や地域の創造性を高め、地域の文化力を向上させるものである。</p>		
事業概要	<p>本事業は、「学校や地域と連携した美術による人材育成」を行うため、以下の3つの事業と、この3つの事業を下支えする「中間組織」の強化をはかる。</p> <p>1. 「地域文化の担い手育成事業」：将来の文化の担い手である小・中学生を中心とした若者を対象とした取り組みである。学校教育との連携や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動などを行う。</p> <p>2. 「みんなの美術推進事業」：あらゆる人を対象として、美術文化に関心をもつ人々</p>		

	<p>の裾野を広げるための取り組みである。講座回数を重ねるとともに、分野横断的な内容を入れるなどして、多様なニーズにこたえる。</p> <p>3. 「美術によるグローバル人材育成事業」：地域の魅力を「美術」をとおして再発見する取り組みである。他地域（海外）との交流なども取り入れ、地域の活力の向上もねらいとする。</p> <p>「中間組織」の強化：開館以来、美術館の新たな機能の充実を図っており、県内の美術館や博物館と連携はもちろんであるが、市町村や地域団体、産業等とも連携して、地域課題にも対処できるようにする。</p>
<p>実施項目</p> <p>・</p> <p>実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</p> <p><input type="checkbox"/>イ ユニークベニューの促進</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p><input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p><input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</p> <p><input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p>
<p>施後の</p> <p>成果・効果等</p>	<p>○学校ワークショップは、62回の講座に、47校、2,399名が参加した。このうち、アウトリーチ系ワークショップを33回実施するなど、県内各地域で美術体験の機会を提供することができた。</p> <p>○指導者講座は、17講座実施し501名が参加。先生の講座(285名参加)では、「学校・各園での指導に活用したい」が95%を超えるなど、高い評価であった。</p> <p>○地域美術館体験講座を、別府市にて開催し、関連事業も含めて1,883名が来場。市内の全中学1年生が参加した中学生美術館体験講座では、90.5%が「別府の魅力を見つけた」と回答した。</p> <p>○スクールミュージアムは、宇佐市立宇佐中学校で開催し、地域の小学生や保護者を含む450名が来場。97.3%の中学生が「赤色の意味を考えたり、感じたりできた」と回答した。</p> <p>○子ども美術館は、由布市で開催。市内の15園の5歳児全員を対象として実施。保護者や地域住民も含め547名が来場。引率教師によると「子どもたちが本気で見ていた」「抽象画に夢中になるのは驚きだった」など、幼少期から本物に出会うことの意義が伝わった。</p> <p>○美術館ワークショップは、土曜アトリエとして、26回実施し、680人が参加。創造ワ</p>

ークショップは、木島氏、島崎氏、佐々木氏、佐野氏を招聘し、8講座開設し137人参加した。専門的な内容に、身を乗り出して聞き入る姿が見られた。

○分野横断講座は、色にまつわる多彩な講師を招聘。連続レクチャーを7講座開催し351名が参加した。金曜講座は、39回実施。参加人数は722名である。

○地域創造講座は、姫島村と佐伯市と豊後大野市の3地域で実施。「ふるさとの色」をテーマとした特別プログラムを組んだ。佐伯市宇目緑豊小学校では、自分の好きな色に加え、自分の暮らす地域をイメージする色についても語る姿がみられるようになった。

○交流プログラムは、シンガポールと姫島が、顔料づくりという共通の体験を通して、交流するプログラムを開発した。開発プログラムを実施する中で、姫島中の生徒は、「色を通してつながることができて、すごいと思った」「他の地域は色が違った」と述べるなど、地域の特性に目を向けたり「シンガポールに黒曜石はありますか？」と質問したりなど、異文化理解のきっかけとなった。美術館活動を通じた国際交流モデルづくりがすすんだ。

### 【事業実績】

美術による人材育成事業として、学校・地域・美術館において多数のワークショップを実施した。美術のもつ柔軟性を活用して、分野横断的な内容の講座を開催。「色をめぐる七つの話」として、県内外から多彩な講師を招聘し、ワークショップ・レクチャーを実施。先生のための講座を小学校・幼稚園・こども園までの教員を対象に実施した。地域美術館体験では、学校や園を核として、地域をまきこみ、子どもから大人までが、本物の芸術に触れる機会を拡充できた。さらに、国外との交流を通して、ふるさとの歴史や文化などのよさを発信する取組も実施できた。

## 1. 地域文化の担い手育成事業

### (1) 将来の文化の担い手育成する学校向けワークショップ（学校ワークショップ）



なおいりこども園ワークショップ



豊学校ワークショップ



大道小学校ワークショップ

○学校ワークショップは、62回の講座に、47校、2,399名が参加した。このうち、アウトリーチ系ワークショップを33回実施するなど、県内各地域で美術体験の機会を提供することができた。

美術館にくることのできる学校・園に対しては、美術館の所蔵作品も含めた美術体験プログラムを用意した。美術館までくることが出来ない学校・園に対しては、素材に全身で関わり、色や形を楽しむプログラムを用意した。美術に触れる学校・園の裾野拡大がすすんだ。

(2) 地域の美術文化を守り・継承するための指導者向け講座（指導者講座）



採用2年目小学校教員研修



幼稚園の先生向け講座



こども園中堅保育教諭対象講座

○指導者講座は、17講座実施し501名が参加。先生の講座(285名参加)では、「学校・各園での指導に活用したい」が95%を超えるなど、高い評価であった。

(3) 本物の美術作品を活用した地域・学校での体験講座（体験講座）

① 地域美術館体験講座（中学生美術館体験）



○地域美術館体験講座を、別府市にて開催し、関連事業も含めて1,883名が来場。市内の全中学1年生が参加した中学生美術館体験講座では、90.5%が「別府の魅力を見つけた」と回答した。

② スクールミュージアム宇佐市立宇佐中学校



○スクールミュージアムは、宇佐市立宇佐中学校で開催し、地域の小学生や保護者を含む450名が来場。97.3%の中学生が「赤色の意味を考えたり、感じたりできた」と回答した。

③ 子ども美術館



○子ども美術館は、由布市で開催。市内の15園の5歳児全員を対象として実施。保護者や地域住民も含め547名が来場。引率教師によると「子どもたちが本気で見ていた」「抽象画に夢中になるのは驚きだった」など、幼少期から本物に出会うことの意義が伝わった。

## 2. みんなの美術推進事業

### (1) 子どもから大人までが参加できる美術館ワークショップ（美術館ワークショップ）



○美術館ワークショップは、土曜アトリエとして、26回実施し、680人が参加。身体全体で美術を体感出来る内容で、参加した子ども、保護者も夢中になって取り組んだ。美術を愛好する人々の裾野を広げる取組となった。

### (2) 新たな視点から美術文化を創造するワークショップ（創造ワークショップ）



①素材と色（木島隆康講座） ①素材と色（島崎信講座） ②色と形のVC（佐々木剛講座）

○創造ワークショップは、「素材と色」をテーマとしたレクチャーに、木島氏、島崎氏、「色と形のビジュアルコミュニケーション」をテーマとした講座に佐々木氏、佐野氏を招聘し、8講座開設し137人参加した。専門的な内容に、身を乗り出して聞き入る姿が見られた。

専門的な内容を分かりやすく説明し、また、木島氏の講座では金箔を貼る活動など、どの講座にも体験的な内容も盛り込んでいたため、受講者から「このような講座を継続してほしい」という声が多数寄せられた。

### (3) 地域の伝統や文化を分野・領域を超えて楽しむ講座（分野横断講座）



① 連続講座7つの話（吉岡幸雄） ①連続講座7つの話（朽津信明） ②夜の大人の金曜講座

○分野横断講座は、色にまつわる多彩な講師を招聘。連続レクチャーを7講座開催し351名が参加した。金曜講座は、39回実施。参加人数は722名である。

### 3. 美術によるグローバル人材育成事業

(1) 地域の創造性を、芸術体験を通して育てるアウトリーチ

① 姫島村 (姫島中学校)



② 佐伯市 (宇目緑豊小学校)

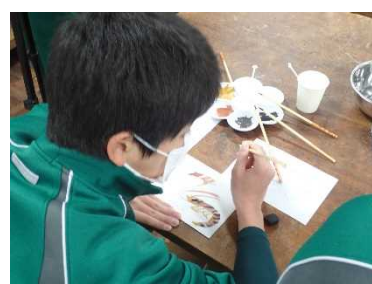


○地域創造講座は、姫島村と佐伯市、豊後大野市の3地域で実施。「ふるさとの色」をテーマとした特別プログラムを組んだ。佐伯市宇目緑豊小学校では、自分の好きな色に加え、自分の暮らす地域をイメージする色についても語る姿がみられるようになった。

(2) 地域の創造性を表現し、国際的な発信力を高める交流プログラム



交流プログラム1 (シンガポール編)



## 交流プログラム2（姫島中編）



## 交流会プログラム3（情報通信システムを使った交流編：シンガポール⇄姫島中）

### 総括

「学校や地域と連携した美術による人材育成事業」では、県内全域において、美術館活動に参加できる体制を整備することができた。具体的には地域美術館体験講座など、地域に美術館の作品を持ちだし、子どもたちの鑑賞機会を充実させる取組を平成27年から始めて、トータルで県立美術館の立地する大分市を除く17市町村中10市町村の実施となり、計画通り県内全域での普及率58.8%を達成した。美術館の新しい機能としての国際交流モデルは、姫島村にて姫島中学校をモデル校として実施。美術によるグローバル人材育成事業の初年度としては、県内6地域における1地域目の実施（16.7%の普及率）ができ目標が達成された。全体を通しては、173講座を実施し、85校、7930人の参加を得て、目標値6000人に対する達成率が132%となり、美術館体験の機会を十分に提供できたといえる。「美術館につれていきたい」（美術館への期待値）と答える先生は98.1%、「何か気づきがあった」（感動体験）と答えた生徒は95.9%、「地域の魅力を再発見した」と答えた生徒は95.3%など、高い数値を示した。学校との連携においては、スクールミュージアムにおいて特別講座を開催し、それにあわせて学校の授業を組み替えるなど、教育効果をねらった取組がすすんだ。具体的には、社会科と美術科を連携させ、地域文化にも目を向けさせた宇佐神宮フィールドワークや、宇佐校区周辺ジオラマ制作まで波及した。生徒からは、「赤にもベンガラ、朱、鉛丹など、たくさんの赤があることが分かった。今度は、博物館に行って続きを調べたい」と記述するなど、身近な美や色彩への興味関心が深まった。奈良国立博物館の松本館長のミュージアムレクチャーと、生徒の学習発表会を重ねて実施することで、生徒の主体的な発表活動がみられたり、生徒の学習にさらに深い専門知識による提案がおこなわれたりなど、相乗効果が生まれた。地域の方の90.9%は、このような取組に意義があると答え、「ふるさとの良さが再確認できた」「継続的な取組を希望します」「続けてほしい」といった声がよせられるなど、大変高い評価をいただいた。